

平成 28 年度

災害福祉支援活動研修実施事業

報告書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会
平成 28 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



平成 28 年度
災害福祉支援活動研修実施事業
報告書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会
平成 28 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

もくじ

1. はじめに	—————	p4
2. 事業の目的等	—————	p5
3. 事業内容・実績	—————	p6
4. 事業成果	—————	p14
5. 新たなニーズ、課題	—————	p20
6. まとめに代えて	—————	p21
7. 参考資料	—————	p22

1. はじめに

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震のように、大きな災害が全国で毎年のように発生し、さらに東日本大震災など特に甚大な災害の影響は 5 年以上経った今でも生活支援が必要とされている現状がある。また、当協会の会員校（社会福祉士養成校）で自主的に「災害福祉」に関する講義を開講する学校は年々増加し、学生による地域の防災・災害支援等への取組みも広がりをみせているなど、福祉を目指す人々にとって、災害時の福祉的な支援への関心は高まっている。

当協会では、平成 24 年度から災害ソーシャルワークに関する研究事業を開始し、『災害ソーシャルワーク入門』の出版、研修テキストと研修プログラムの作成、災害福祉支援活動基礎研修の実施などを行ってきた。その中で、被災地での生活支援には多様で複合的なニーズが存在することから、「福祉職間の連携」「災害福祉支援のできる福祉人材育成や地域での備えやネットワークづくり」「急性期の医療との連絡調整・連携」「発災時・避難所期から仮設、恒久住宅への移行期まで見据えた支援」「医療的なニーズから福祉的なニーズへ」等の重要な点があると考えている。また、全国各地で活動する福祉専門職がそれぞれの地域で災害に備えてネットワークを作ったり、近県等で災害が発生したときに災害福祉支援の派遣チームが組織できる人材を広く多く育成したりすることが急務だと考えている。

災害福祉支援活動研修等実施事業は、平成 28 年度、研修プログラムの改良を経て、熊本、高知、大阪、愛知の 4 か所での基礎研修と 1 回の追加講座を実施した。研修には、全国から多数の福祉、介護の専門職や社会福祉協議会、NPOなどで地域の福祉を担う人々が集まり、積極的な参加をいただいた。

また、この事業を通じて福祉介護の諸職能団体や全国社会福祉協議会など、今後の災害福祉支援の発展につながる全国組織の協力と連携を得ることができた。これにより熊本地震や岩手・北海道の風水害等が起こる中で、実際に団体、委員などのネットワークによる情報の共有を行うことができた。

さらに熊本地震が 4 月に発生し、様々な支援が実際に動く中、当協会の会員校である熊本学園大学が発災直後から学内に避難所を開設・運営・終結された、その経験や知見を全国で共有させていただくための講義をプログラムに加えた。

福祉に限らず様々な立場からの講師による盛りだくさんのプログラムによるこの 2 日間の研修を通して、受講者が全国の地域に学びを持ち帰っていただいた。演習のグループは様々な職種の人たちが 1 つのグループとなって災害時の具体的な支援などについてワークを行う経験を得た。今後、研修の学びや経験を通じて、他の職種とも平時からネットワークをつくり、防災を福祉の視点から見直す地域づくり、まちづくりのきっかけとして活かしていただきたい。

2. 事業の目的等

目的：災害支援に関心のある福祉職に参加を呼びかけ、災害時の福祉支援に関する基礎的な知識を共有して習得すること。また他の福祉系専門職等の考え方や専門性を知り、ネットワークを作ること。さらに受講後には各地域へ持ち帰り、地元での福祉支援者の協働のきっかけとなること。受講者は災害時の福祉支援者に必要な基礎知識を持つことから、今後の災害時福祉支援に備えた受講者のネットワークをつくる等を目的に、全国で福祉関連の専門職を対象とした災害福祉支援活動基礎研修等を実施する。

主催：一般社団法人日本社会福祉士養成校協会

共催：公益社団法人日本医療社会福祉協会

後援：厚生労働省

協力（順不同）：公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人日本介護福祉士会、一般社団法人日本介護支援専門員協会、NPO 法人日本相談支援専門員協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、NPO 法人日本ソーシャルワーカー協会、一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会、一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟、熊本学園大学、高知県立大学、桃山学院大学、日本福祉大学

助成：独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



平成 28 年 4 月の熊本地震で被災した熊本城

3. 事業内容・実績

(1) 研修プログラムの改訂事業

委員会を組織し、これまでに試行実施された「災害福祉支援活動基礎研修」研修プログラムやテキストを改良した。委員会には各協力団体からの委員の他、講師を務める、災害福祉支援に携わる社会福祉士等養成校の教員や被災の現場や支援を行ってきた専門職などに加わっていただいた。成果としては、テキストの改良とともに、委員会を通じてネットワークの必要性についての共通認識や、情報の交換・共有の下地となる関係性を持つことができた。

■委員会の日時と会場

- 第1回 平成28年8月22日(月) 14時～17時 会場：都漁連水産会館5階会議室
 第2回 平成28年9月18日(日) 14時～17時 会場：日本社会福祉士養成校協会研修室
 第3回 平成29年3月10日(金) 15時～17時 会場：日本社会福祉士養成校協会研修室
 その他、各講義等の担当講師の先生方で打合せ、調整等を適宜実施。

■委員名簿(敬称略)

委員氏名	所属	講師兼務
白澤 政和	桜美林大学大学院	
上野谷 加代子	同志社大学	
遠藤 洋二	関西福祉科学大学	○
大島 隆代	浦和大学	○
笠松 信幸	一般社団法人日本介護支援専門員協会	
角山 信司	社会医療法人仁愛会	○
川井 太加子	桃山学院大学	○
小早川 義貴	独立行政法人国立病院機構災害医療センターDMAT事務局	○
齋藤 栄樹	特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会	
齊藤 千鶴	関西福祉科学大学	○
笹岡 真弓	文京学院大学(日本医療社会福祉協会)	○
佐藤 杏	国立成育医療研究センター(日本医療社会福祉協会)	○
高杉 公人	聖カタリナ大学	○
高橋 了	石巻市社会福祉協議会	○
高橋 良太	社会福祉法人全国社会福祉協議会	
坪田 まほ	公益社団法人日本医療社会福祉協会	○
中谷 陽明	松山大学	
舟田 伸司	公益社団法人日本介護福祉士会	
峯本 佳世子	高齢者コミュニティケア研究所	○
森谷 就慶	公益社団法人日本精神保健福祉士協会	
山本 克彦	日本福祉大学	○
山本 純江	公益社団法人日本社会福祉士会	

■関係者等からの情報収集、相談等

・独立行政法人国立病院機構

日時：平成 28 年 9 月 15 日（木）13：00～14：30

場所：国立病院機構本部（東京都目黒区）

訪問先：独立行政法人国立病院機構 副理事長 古都 賢一 様

同 本部医療部病院支援部 支援課長 江口 孝司 様

訪問者：川井 太加子 氏（桃山学院大学）、野村 裕美 氏（同志社大学）、事務局（杉本美奈子）

内容：上野谷加代子委員の紹介により古都氏らへヒアリングを行い、DMAT の研修体系についての説明や本事業についてのアドバイス等を得た。

・「災害ボランティアセンター運営者研修」参加

名称：平成 28 年度第 2 回災害ボランティアセンター運営者研修

日時：平成 29 年 12 月 7 日（水）～12 月 8 日（木）1 泊 2 日

場所：信州松代ロイヤルホテル（長野県松代町）

主催：社会福祉法人全国社会福祉協議会、社会福祉法人長野県社会福祉協議会

協力：災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

参加者数：138 人

参加者：事務局（小森敦）

内容：全国の社会福祉協議会ボランティアセンター担当者が集まる研修会。災害ボランティア活動の仕組み、情報発信、ネットワーク、人、もの、金といった、具体的な災害ボランティアセンター運営に必要な実践的な知識の習得。また、参加者全員の写真入り個人プロフィールが渡され、今後に繋がる、参加者同士の顔の見える関係づくりができた。

・大規模地震時医療活動 DMAT 企画部会

日時：平成 29 年 2 月 27 日（月）14：00～16：00

場所：大阪赤十字会館（大阪市）

訪問者：川井太加子氏（桃山学院大学）、事務局（小森敦、杉本美奈子）

内容：大阪府内の災害拠点病院等 15 病院と自治体で 7 月に計画する DMAT の大規模訓練の準備委員会。大阪会場で講師を務められた若井氏の紹介によりオブザーバーとして参加した。

・DMAT 業務調整員ヒアリング

日時：平成 29 年 3 月 23 日（木）15：00～16：30

場所：都城市郡医師会病院（宮崎県都城市）

訪問先：都城市郡医師会病院 地域連携室 堂村祐太様（DMAT 業務調整員）

訪問者：川井太加子氏（桃山学院大学）、事務局（杉本美奈子）

内容：上野谷加代子委員の紹介により、DMAT の業務調整員として活動する同氏にヒアリングを行った。DMAT の実際の活動、動き方や DMAT 活動中の福祉的ニーズへの対応、福祉専門職として同行する際の留意点などについて、現状を伺いアドバイス等を得た。

(2) 災害福祉支援活動基礎研修実施事業（以下「基礎研修」という）

①日時と会場

第1回目（熊本会場）

日時：平成28年10月22日（土）、23日（日）

会場：熊本学園大学 14号館 1422教室（熊本県熊本市中央区大江2丁目5番1号）

第2回目（高知会場）

日時：平成28年11月26日（土）、27日（日）

会場：高知県立大学 池キャンパス共用棟2階大講義室（高知県高知市池2751番地1）

第3回目（大阪会場）

日時：平成28年12月10日（土）、11日（日）

会場：桃山学院大学 トマス館 003教室（大阪府和泉市まなび野1-1）

第4回目（愛知会場）

日時：平成29年2月18日（土）、19日（日）

会場：日本福祉大学 東海キャンパス南館 S402教室（愛知県東海市大田町川南新田229）

②対象：地域で活動する社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、相談支援専門員などの福祉・介護の専門職、社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、福祉系教員など災害福祉支援に関心のある福祉系の職務や専門の方

③受講料：4,000円



熊本学園大学14号館

この教室と廊下も避難場所になっていたという



愛知会場の日本福祉大学東海キャンパスは
「津波一時避難ビル」に指定されている

④プログラム概要

<基礎研修>

■総論（講義）

講師：川井 太加子 氏（桃山学院大学）〔高知〕

大島 隆代 氏（浦和大学）〔熊本、大阪、愛知〕

概要：研修テキストとレジュメをもとに、総論として「災害とは」「組織的支援とは」「外部からの福祉支援の原則」「多職種の連携による支援」など、枠組みや理論を中心の講義。



■災害医療について（講義）

講師：小早川 義貴 氏（国立病院機構災害医療センター）

→原田 奈穂子 氏（東北大学大学院）〔熊本〕

鶴和 美穂 氏（国立病院機構災害医療センター）〔高知〕

若井 聡智 氏（国立病院機構大阪医療センター）〔大阪〕

高橋 礼子 氏（国立病院機構災害医療センター）〔愛知〕

概要：災害派遣医療チーム（DMAT）の第一線で活躍する医師等による、わが国の災害医療体制、DMATの目的、支援方法、福祉支援に期待することなどについての講義。

※熊本会場については、鳥取で大規模な地震が発生した翌日であったため講師の小早川氏はDMAT支援のため急きょ鳥取へ出勤された。急遽行われたDMAT内での講師派遣調整が不調だったため、小早川氏と協働経験のある原田氏に、小早川氏の承諾・口頭打合せ・資料提供の上で、災害医療の概要についての講義を行っていただいた。調整待ち・連絡待ち等の関係で、研修プログラムの実施順を一部変更して行った。

■国、自治体の災害福祉関連施策など（講義）

講師：木村 忠治 氏（熊本県福祉のまちづくり室室長）〔熊本〕

三宮 隆明 氏（高知県地域福祉部地域福祉政策課）〔高知〕

丸山 裕 氏（厚生労働省社会・援護局）〔大阪〕

松田 久 氏（東海市総務部防災危機管理課）〔愛知〕

概要：各開催地の自治体担当者による、各地域で備えられている防災対策施策や避難所など災害対応の枠組みと、その基となる考え方、福祉専門職による支援へ望むことなどについての講義。但し大阪会場については、厚生労働省の担当専門官からは、国の災害対応、福祉避難所のしくみ等についての講義。

■多職種連携（講義）

講師：原田 奈穂子 氏（東北大学大学院）〔熊本、高知、大阪、愛知〕

概要：災害支援における多職種連携の必要な理由、連携の実例、課題、特に支援者の感じるストレスとその対応などについて、理論と実践に基づいた講義。



■ 震災後・避難所生活期の福祉活動（講義）

講師：斉藤 千鶴 氏（関西福祉科学大学）〔熊本〕

高杉 公人 氏（聖カタリナ大学）〔高知〕

峯本 佳代子 氏（高齢者コミュニティケア
研究所）〔大阪〕

山本 克彦 氏（日本福祉大学）〔愛知〕

概要：災害時の福祉派遣チームの活動に必要な基礎知識の講義。連絡体制の構築、避難者の概要、外部からの支援

で配慮すべき事項や、特に高齢者、障がい者等、より配慮が必要な場合などの支援のポイント等について、実例に基づいた解説を含んだ講義。



■ 災害福祉支援に関する法制度（講義）

講師：佐藤 杏 氏（国立成育医療研究センター・日本医療社会福祉協会）〔熊本、大阪〕

前田 英武 氏（高知大学医学部附属病院・日本医療社会福祉協会）〔高知〕

坪田 まほ 氏（日本医療社会福祉協会）〔愛知〕

概要：災害時の福祉支援の際に活用できる法制度の紹介。災害対策基本法や被災者生活再建支援法、生活保護法、弔慰金支給法などで使用できる制度等についての解説。

■ 東日本大震災の支援の現在（講義）

講師：笹岡 真弓 氏（文京学院大学・日本医療社会福祉協会）〔熊本、高知、大阪、愛知〕

概要：東日本大震災から 5 年経ち、災害発生当初から石巻で支援を継続している日本医療社会福祉協会の活動と、現地のニーズや支援、環境の変化などについての報告。

■ 福祉支援経験者からの報告（講義）

講師：前田 英武 氏（高知大学医学部附属病院・日本医療社会福祉協会）〔高知〕

山本 克彦 氏（日本福祉大学）〔愛知〕

概要：開催地各地の福祉支援の実際の活動についての報告。なお熊本は熊本学園大学からの報告、大阪は日本医療社会福祉協会の報告と合わせて行われた。

■ 熊本大地震下のインクルーシブな避難所 熊本学園大学での経験から（講義）

講師：花田 昌宣 氏（熊本学園大学）〔熊本、高知、大阪〕

黒木 邦弘 氏（熊本学園大学）〔熊本、愛知〕

概要：熊本地震発災直後から大学内の教室等を避難所として開放し、障害者等含む様々な人々を受け入れ、最後のひとりまで行き先を確保して終結された熊本学園大学教員を講師に迎え、避難所運営の経緯や経過、その方針や行動、課題となる論点などについての講義を行った。熊本会場では時間を他会場より 30 分長く取り、2 人の講師からじっくりと講義をいただいた。



■避難所生活期での福祉の活動と実際（演習①）

講師：遠藤 洋二 氏（関西福祉科学大学）〔熊本、高知、大阪、愛知〕

高橋 了 氏（石巻市社会福祉協議会）〔熊本、愛知〕

角山 信司 氏（社会医療法人仁愛会）〔高知、大阪〕

峯本 佳代子 氏（高齢者コミュニティケア研究所）〔熊本〕

高杉 公人 氏（聖カタリナ大学）〔高知〕

斉藤 千鶴 氏（関西福祉科学大学）〔大阪〕

山本 克彦 氏（日本福祉大学）〔愛知〕

概要：避難所での暮らしと避難者への福祉的な支援について、グループワークを行った。映像や資料からの気づきを共有、分類し、優先順位をきめて具体的な支援方法について議論した。被災地の専門職からの意見をはさみ、また災害福祉を学んだ学生作の動画でまとめられた。

■チームカンファレンス（演習②）

講師：梅崎 薫 氏（埼玉県立大学・日本医療社会福祉協会）〔熊本〕

井上 健朗 氏（高知県立大学・日本医療社会福祉協会）〔高知、大阪、愛知〕

ファシリテーター：笹岡 真弓 氏（文京学院大学・日本医療社会福祉協会）〔熊本、高知、大

阪〕、佐藤 杏 氏（国立成育医療研究センター・日本医療社会福祉協会）〔熊本、大阪、

愛知〕、坪田 まほ 氏（日本医療社会福祉協会）〔熊本、高知、大阪、愛知〕、前田 英武

氏（高知大学医学部附属病院・日本医療社会福祉協会）〔高知、大阪〕、鈴木 裕介 氏

（高知県立大学）〔高知〕、藤田 譲 氏（白鷺病院）〔大阪〕

概要：被災者と相談者の例がロールプレイされ、その上でグループに分かれてそれぞれの専門性を活かしてその状況を把握・想定し、どのように支援を進めていくか等について考える演習を行った。



※被災地見学

第1回基礎研修の会場校である熊本学園大学のご厚意により、熊本開催の前日に、熊本地震で大きな被害を受けた熊本市と益城町を同大学のマイクロバスで見学し、また被災者の話を伺った。コーディネーターはご自身も益城町で被災された同大学社会福祉学部の和田要教授が担われ、手作りの資料により各所、車内で説明をしてくださった。地震から約半年が過ぎ、避難所はほとんど閉鎖されて仮設住宅等へ移行が進み、再建も続いているという状況だったが、路地に入った家々の被害などはまだ発災時とかわらない様子も見て取れた。また、益城は農業が盛んな地域だが、被災によって時期毎に必要な農作業ができないとその年全体の収入等に影響するため、少しでも作業を進めるために自宅避難が多かった等の説明があった

■日時：平成28年10月21日（金）13：00～16：50

■発着地：熊本学園大学

■主な見学先：

熊本学園大学 ～ 益城町・大規模半壊個人宅（教授自宅） ～ 馬水南仮設住宅（仮設団地内の見学、自治会長から話を聞く） ～ 益城町災害ボランティアセンター（災害ボラセンの活動等の話を聞く） ～ 益城町・個人宅（町議会議員からご自宅にて話をきく。自宅敷地内に地震による断層あり） ～ 熊本学園大学 他、道中車内からの見学有り

■参加者数：14名＋コーディネーター（和田教授）、事務局

■参加費：無料



被災地見学の様子

(3) 災害福祉支援活動研修講師養成講習会実施事業（以下「追加講座」という）

①日時と会場：平成 28 年 12 月 11 日（日）16：30～18：30

桃山学院大学（大阪府和泉市）

②プログラム：「これから災害福祉支援を教える人のためのセミナー」として基礎研修受講者で希望する者が受講することとした。基礎研修の内容を踏まえ、災害福祉の理論・枠組み等の概要、災害福祉教育の実践など、教えるためのポイントを講義形式で行った。

③講師：遠藤 洋二 氏（関西福祉科学大学）、大島 隆代 氏（浦和大学）

④対象：基礎研修受講者で、災害福祉支援活動に関して研修等で教える立場にある人、今後そのような活動を行う予定や関心のある人

⑤受講料：2,000 円



追加講座「これから災害福祉支援を教える人のためのセミナー」



大阪会場（桃山学院大学）のチャペル。12 月開催時にはライトアップされ、受講者の目を楽しませていた

4. 事業成果

(1) 研修プログラムの改良事業

これまでに培ってきた試行的な基礎研修実施内容等を踏まえ、委員や諸団体の協力を得ながら研修テキストとプログラムを作成した。委員会での検討の他、各地で担当ごとに検討や調整の会を持って研修内容の改善に取り組んでいただいた。また、この委員会には、講師等のほか協力団体からの委員も加わっているが、委員会の活動により、協力団体の情報交換が進み、災害福祉支援のための連携を進める一助となった。

(2) 基礎研修 事業成果

中央開催ではなく、南海トラフ地震などの被害が想定されるなど防災に関心の高い4つの地域で延べ300人弱の人の参加を得て実施できた。プログラムは「基礎研修」として、福祉職が災害支援派遣を担う場合に必要な基礎知識の学びや連携の演習などを提供した。

(3) 追加研修 事業成果

今後災害福祉の研修は様々な地域、団体で行われていくことを想定して、そこで教える立場にある人たちを対象に、基礎研修の知見を踏まえて専門職や学生にいかに伝えるか、その仕組みや実践について講義を行った。当初は40人ほどの企画だったが、参加希望や問い合わせが多かったため定員を増やして対応した。

(4) 研修の申込者数、受講者数、出席率

①基礎研修 申込者数：306人 受講者数：283人 出席率92%

熊本会場： 申込者数：57人

受講者数：1日目53人 出席率93%

2日目51人 出席率89%

高知会場： 申込者数：39人

受講者数：1日目39人 出席率100%

2日目38人 出席率97%

大阪会場： 申込者数：113人

受講者数：1日目102人 出席率91%

2日目97人 出席率87%

愛知会場： 申込者数：97人

受講者数：1日目89人 出席率92%

2日目86人 出席率89%

②追加講座： 申込者数：63人

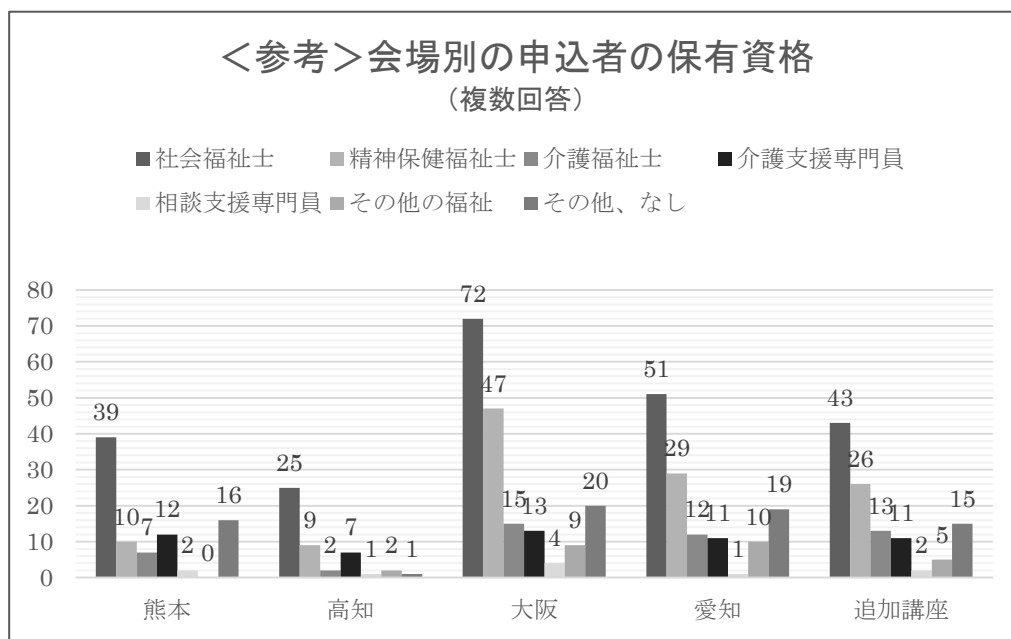
受講者数：58人 出席率92%

(・被災地見学(熊本) 申込者数：14人 参加者数：14人 出席率100%)

③受講者属性等：

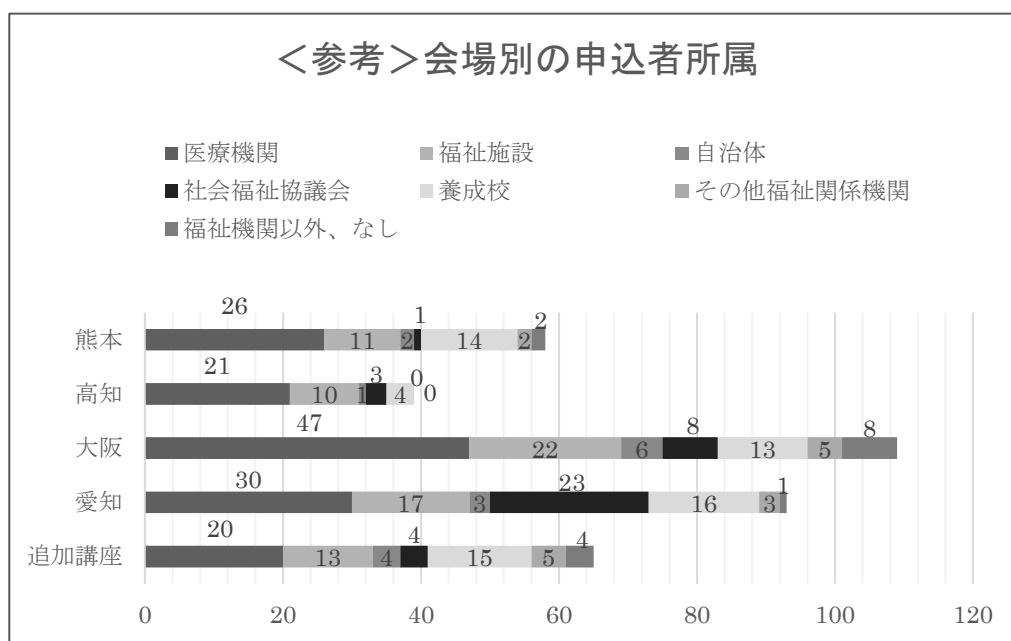
- ・申込者の保有する資格（複数回答）は、全体で以下の通りだった。

社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	相談支援専門員	その他福祉（保育士等）	その他、なし
192	96	36	45	5	21	64



- ・申込者の所属（勤め先等）は全体では以下の通りだった。

医療機関	福祉施設	自治体	社会福祉協議会	養成校	その他福祉関係機関	福祉機関以外、その他
128	61	13	35	47	10	12



※受講者情報の取り扱い

申込書に以下の扱いについて明記し、受講者はそれを確認したうえで受講を申込むこととした。参加申込書に記載した内容は、リスト化して、災害時に派遣する福祉支援者リストとして日本社会福祉士養成校協会が保管し、必要に応じて社会福祉専門職団体協議会（日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、日本医療社会福祉協会、日本ソーシャルワーカー協会）、日本ソーシャルワーク教育連絡協議会（日本社会福祉士養成校協会、日本精神保健福祉士養成校協会、日本社会福祉教育学校連盟。平成 29 年 4 月以降は 3 団体合併により「日本ソーシャルワーク教育学校連盟」に名称変更）で共有する。

また受講者には研修 2 日目に「災害福祉支援派遣のための情報シート（記名式）」を配布し、派遣に関しての詳細な情報の提供（自動車運転の可否等。自筆）をしていただいた。これも同様にリスト化し、保管する。なお、これらの情報は災害時に派遣を打診するためのリストとして保管し、災害時には住所地や専門等により調整し打診を行ったうえで、その時々候補者の事情により派遣を調整する。これらの情報はこの事業と災害派遣関係以外に使用しない。

(2) 研修アンケート

研修名	災害福祉支援活動基礎研修 熊本会場		
	利用者・参加者数	回答者数	回答率
1 日目	53	18	34%
2 日目	52	39	75%
とても満足	満足	やや満足	不満足
7	7	3	0
17	15	3	1
満足・不満足の主な理由（自由記述）			
■満足の主な理由	・ 支援者側の思いや気持ちが大きいの分かるが、被災地の方への配慮を一番に考えないといけないと感じた。 ・ 講師陣の本気度、本研修の期待度が伝わった。 ・ 多職種の方（特に被災地で仕事に就いていた）と話ができてよかった。 ・ 専門職の方々の中に混じっての研修は大変良い学びになった。		
■不満足の主な理由	・ 1つ1つの話をもっと時間をかけて聞きたかった。 ・ 講義の内容が、一部重複しているところがあった印象。 ・ 災害派遣福祉チームのしくみ、事前調整の具体的な話が聞きたかった。		

研修名	災害福祉支援活動基礎研修 高知会場		
	利用者・参加者数	回答者数	回答率
1 日目	39	34	87%
2 日目	38	32	84%
とても満足	満足	やや満足	不満足
15	18	0	0
20	10	1	0
満足・不満足の主な理由（自由記述）			
■満足の主な理由	・ 法律の情報が得られることは有難い。支援の体験談も非常に役にたちそう。 ・ 災害支援を実際にやってこられた方々の講義を聞くことができて、県レベルの職能団体として今何をすべきかを考えるきっかけになった。		
■不満足の主な理由	・ 全て大切な内容であるが、詰め込みすぎな感じがある。 ・ 会場が中心部から遠くしかもバス便が不便のため行きづらかった。		

研修名	災害福祉支援活動基礎研修 大阪会場		
	利用者・参加者数	回答者数	回答率
1 日目	102	87	85%
2 日目	97	80	82%
とても満足	満足	やや満足	不満足
17	37	7	3
29	24	2	1
満足・不満足の主な理由（自由記述）			
■満足の主な理由	・内容はどれも素晴らしい。福祉専門職の支援活動をする人は必須の研修だと思う。 ・ソーシャルワーカーという仕事の幅の広さと柔軟さを知れて、自分には何ができるのだろう、今なにをしておくべきなのだろうと考えさせられた。 ・多分野でソーシャルワーカーとしての価値を同一として話し合ったことはとてもよかった。		
■不満足の主な理由	・日程が詰まりすぎ。 ・焦点がどこなのか、少しわかりにくさがあった。 ・会場が都心の駅、空港などから遠かった。		

研修名	災害福祉支援活動基礎研修 愛知会場		
	利用者・参加者数	回答者数	回答率
1 日目	89	77	87%
2 日目	86	68	79%
とても満足	満足	やや満足	不満足
24	31	3	0
35	17	5	0
満足・不満足の主な理由（自由記述）			
■満足の主な理由	・参加者の多様さに驚きました。関心の高さの表れでもあり、明日の演習が楽しみ。 ・福祉職として何ができるか、自分も被災者になり得るだろう状況も想定しながら講義を聴くことが出来た。 ・講師から研修会場での防災キャンプの話があり興味深かった。建物の中を知る簡単な見学ツアーがあれば良いと思った。 ・普段様々な分野で働いている支援者達が集まることで、様々な視点からの気づきがあることが分かった。		
■不満足の主な理由	・基礎研修ということで、様々な講師の講義が聴けて良かったが、時間が短くて、もう少し奥深く聞きたいと思ったのもあった。 ・急性期、亜急性期にソーシャルワークが外部支援として何ができるのかが不透明。 ・2 日間で終了させる内容にしてはスケジュールがタイトすぎ。通年での履修なども		

	ご検討頂きたい。		
研修名	災害福祉支援活動研修 追加講座 「これから災害福祉支援を教える人のためのセミナー」		
利用者・参加者数	回答者数		回答率
58	42		72%
とても満足	満足	やや満足	不満足
16	15	3	0
満足・不満足の主な理由（自由記述）			
■満足の主な理由	・防災に関する研修を行うにあたってのモヤモヤが取れた。 ・講師が日頃、学生さんと取り組まれていることに感動しました。 ・まだまだマイナーな実践を初めて講義を受けて大きな学びとなった。		
■不満足の主な理由	・災害時に自組織が求められる役割や考えられる状況について具体的に対策を検討する必要性を感じた。要援護者が危機感を感じていることはわかっているが、具体的な対策を提示できないあせりもある。 ・むしろ、本体の（追加ではなく）講座で聞きたい内容だった。これを聞いた上で、各講師の具体例の話が聞けると良いと感じた。		

※コメントのみ記入の方も回答数に入れているため、「とても満足～不満足」の合計数と回答者数は異なる。

5. 新たなニーズ、課題

- ・福祉専門職として、災害支援は必須の学びであるということがわかった。高齢、障害、その他いずれの職域、専門性であっても、災害が発生した際には共通の、持つべき認識・事柄があると考えられる。(現地の人が主役で支援側は土地柄・状況等に合わせることなど)
- ・今回、委員会等で集った諸団体等のネットワークは、災害時のプラットフォームとして継続が必要という認識が共有できた。
- ・プログラムには改善の余地がある。災害支援は幅広く、また今回の基礎研修は「発災～避難所期」に絞ったがそれでもかなりのボリュームで、全会場で「盛りだくさん」という反応があった。プログラムの配置(例：1日目にも演習を配置するなど)の工夫も可能ではないか。ただし、「学びが多くて充実した」「重複しているところは、違うアプローチからきताうえで重なっているので、大切なポイントということではないか」「災害が発生したらかなり厳しい状況に置かれることから、ボリュームがあってもきちんと続ける必要がある」という指摘もあった。
- ・「基礎研修」から一步進んだ発展クラスの研修やシリーズ化を求める声もあった。生活や環境への支援は、避難所から仮設住宅や自宅へ移行したあとも、ニーズを変化させながら必要性はなくなるということから、その部分の研修へのニーズもあると考えられる。発災の可能性の高い地域(受援側)と、派遣されていく側の、両方の学びが必要ではないかという指摘があった。
- ・社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、相談支援専門員、社会福祉協議会などから多数の参加を得、とくに2日目に行われた「演習」では、様々な職種の人たちが1つのグループとなって、1日目の学びを踏まえた演習を行った。演習そのものの学びとともに、「日常業務では接触がないような他の専門職の人と一緒にワークをすることで、実際にどんな専門性でどんな考え方をするのかなどを知ることができ、ありがたかった」、等の声もあり、連携相手である他の専門性について知り、それを地域でのネットワークづくりに活用してもらうことを期待する。
- ・災害福祉支援を教える研修については、今回は2時間で1回という限定的なものだったが、好評であり、このようなニーズがあることがアンケートからもわかった。
- ・受講者から、「受講者同士がもっとつながりたい」「名簿を共有してほしかった」等の声が複数あった。個人情報にかかわるため、企画設計段階からの工夫が必要。
- ・災害時により効果的、効率的に福祉的な支援を行っていくためには、平常時より災害医療派遣チーム(DMAT)との連携をより強める必要がある。今後DMATの訓練にも参加していけるように努力する必要があるとともに、DMATに「業務調整員」として参加している福祉職者と接触してニーズ等を把握し、災害時に福祉の立場から何ができるのかを考え、(他分野から見ても)明らかにすることが求められる。

6. まとめに代えて

災害時には、医療は DMAT 等の制度化された被災地への派遣制度があるが、福祉サイドにはそうした制度がないのが現状である。しかしながら、福祉サイドでも被災地への派遣が進められており、その有効性も明らかになってきている。同時に、被災地では、派遣された医療系専門職と福祉系専門職が連携を図りながら活動することが求められている。

そうしたことを踏まえ、ここ数年かけて、実際の被災地での福祉系専門職の活動をベースにして、被災地での福祉系専門職の支援方法について明らかにしてきた。これは、医療とは異なり、発災時・避難所・仮設住宅・恒久住宅へと移行する長期にわたる支援であり、同時に、個人への支援と同時に地域社会への支援である。また、そこでの被災している人々だけでなく、被災地の福祉系専門職が主体的に対応することを側面的に支援することであることも明らかにしてきた。

それで、今回は研究の成果を踏まえ、今後の災害に備え、被災地に派遣する人材を養成することを目的にして、全国社会福祉協議会、日本社会福祉士会、日本医療社会福祉協会、日本精神保健福祉士協会、日本介護福祉士協会、日本介護支援専門員協会、日本相談支援専門員協会の 7 団体に呼び掛け、具体的な被災地での活動についての研修会を行った。今回地震被害の大きかった熊本県を始め、南海トラフ地震が起これば甚大な被害が予想される高知県や愛知県、さらに大阪府を加えた 4 か所で研修を行った。さらに、大阪会場では、参加された教員を対象にして、どのように災害福祉支援を学生に教えていくのかの追加講義を実施した。

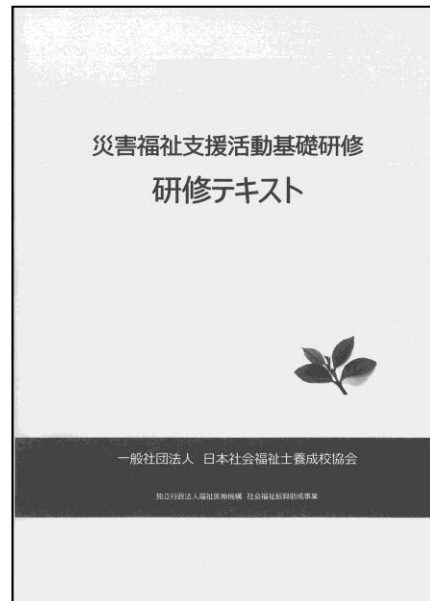
これらの研修については、受講者からはおおむね高い評価を得た。そのため、研修を今後も続けていくことが重要であるとの認識を得た。また、本研修を通じて、上記で述べた 7 団体が今後も連携して、災害福祉支援活動の研修を進めていくことが必要であることも明らかになった。

また、受講者については、災害時に派遣する福祉支援者リストに掲載することの了解を得ることが受講条件であったが、総計 283 名が受講され、今後の地震時での派遣についても派遣人材の確保にも貢献することができた。今後、こうした団体が実施していく災害福祉支援活動研修を実施していくことで、福祉支援者リストを継続して拡大していくことが求められる。

今後福祉系専門職の被災地での活動が有効であることが明らかになれば、国や自治体の制度化されたものになり、DMAT のような継続した研修体制が可能になる。そのため、当分はこうした研修を各地で広げていき、同時に、福祉支援者リストを充実し、万が一の場合に活用していける準備が必要である。

(委員長 白澤政和)

②チラシ<両面>

[illegible]

(2) 各回のプログラム

①熊本会場

熊本会場＜1日目＞10：30-18：00

	時間	内容	講師等
1	5分	挨拶、趣旨説明	川井太加子氏（桃山学院大学）
2	90分	総論	大島隆代氏（浦和大学）
3	60分	災害福祉支援に関する法制度 東日本大震災の支援の現在	佐藤杏氏（国立成育医療研究センター、日本医療社会福祉協会）、笹岡真弓氏（文京学院大学、日本医療社会福祉協会）
4	30分	災害ボランティアとの協働について	木村忠治氏（熊本県福祉のまちづくり室 室長）
5	30分	災害医療について	原田奈穂子氏（東北大学大学院）
6	70分	多職種連携	原田奈穂子氏（東北大学大学院）
7	90分	発災後・避難所生活期の福祉の活動と実際	斉藤千鶴氏（関西福祉科学大学）

熊本会場＜2日目＞9：00-16：30

	時間	内容	講師等
9	150分	熊本地震被災と避難所運営、大学の可能性について	花田昌宣氏（熊本学園大学）、黒木邦弘氏（熊本学園大学）
10	150分	演習① 避難所生活期の福祉支援活動	遠藤洋二氏（関西福祉科学大学）、高橋了氏（石巻市社会福祉協議会）、峯本佳世子氏（高齢者コミュニティケア研究所）
11	90分	演習② チームカンファレンス	梅崎薫氏（埼玉県立大学、日本医療社会福祉協会）佐藤杏氏、笹岡真弓氏、坪田まほ氏（日本医療社会福祉協会）

②高知会場

高知会場＜1日目＞10：30-18：30

	時間	内容	講師等
1	5分	挨拶、趣旨説明	川井太加子氏（桃山学院大学）
2	90分	総論	川井太加子氏（桃山学院大学）
3	60分	災害医療について	鶴和美穂氏（国立病院機構災害医療センター）
4	30分	災害福祉を巡る施策、福祉との連携等	三宮隆明氏（高知県地域福祉部地域福祉政策課）
5	60分	多職種連携	原田奈穂子氏（東北大学大学院）
6	90分	発災後・避難所生活期の福祉支援活動	高杉公人氏（聖カタリナ大学）
7	45分	災害福祉支援に関する法制度 東日本大震災の支援の現在	前田英武氏（高知大学医学部附属病院、日本医療社会福祉協会）、笹岡真弓氏（文京学院大学、日本医療社会福祉協会）
8	20分	開催地の福祉支援経験者からの報告	前田英武氏（高知大学医学部附属病院）

高知会場＜2日目＞9：00-16：05

	時間	内容	講師等
9	120分	熊本大地震下のインクルーシブな避難所 熊本学園大学での経験から	花田昌宣氏（熊本学園大学）
10	150分	演習① 避難所生活期の福祉支援活動	遠藤洋二氏（関西福祉科学大学）、角山信司氏（社会医療法人仁愛会）、高杉公人氏（聖カタリナ大学）
11	90分	演習② チームカンファレンス	井上健朗氏（高知県立大学） 鈴木裕介氏（高知県立大学）、前田英武氏（高知大学医学部附属病院）、笹岡真弓氏（文京学院大学）、坪田まほ氏（日本医療社会福祉協会）

③大阪会場

大阪会場＜1日目＞10：30-18：30

	時間	内容	講師等
1	5分	挨拶、趣旨説明	川井太加子氏（桃山学院大学）
2	85分	総論	大島隆代氏（浦和大学）
3	60分	災害医療について	若井聡智氏（国立病院機構大阪災害医療センター）
4	30分	災害福祉を巡る施策動向、福祉との連携等	丸谷裕氏（厚生労働省社会・援護局）
5	60分	多職種連携	原田奈穂子氏（東北大学大学院）
6	90分	発災後・避難所生活期の福祉支援活動	峯本佳世子氏（高齢者コミュニティケア研究所）
7	45分	災害福祉支援に関する法制度 東日本大震災の支援の現在	佐藤杏氏（国立成育医療研究センター） 笹岡真弓氏（文京学院大学）
8	30分	福祉支援経験者からの報告	笹岡真弓氏（文京学院大学）

大阪会場＜2日目＞9：00-16：05 ＜追加講座＞16：30-18：30

	時間	内容	講師等
9	120分	熊本大地震下のインクルーシブな避難所 熊本学園大学での経験から	花田昌宣氏（熊本学園大学）
10	150分	演習① 避難所生活期の福祉支援活動	遠藤洋二氏（関西福祉科学大学）、角山信司氏（社会医療法人仁愛会）、斉藤千鶴氏（関西福祉科学大学）
11	90分	演習② チームカンファレンス	井上健朗氏（高知県立大学） 前田英武氏（高知大学医学部付属病院）、佐藤杏氏（国立成育医療研究センター）、坪田まほ氏（日本医療社会福祉協会）、藤田譲氏（白鷺病院）
追加	120分	追加講座「これから災害福祉支援を教える人のためのセミナー」	白澤政和氏（桜美林大学大学院）、遠藤洋二氏（関西福祉科学大学）、大島隆代氏（浦和大学）

④愛知会場

愛知会場＜1日目＞10：30-18：30

	時間	内容	講師等
1	5分	挨拶、趣旨説明	上野谷加代子氏（同志社大学）
2	85分	総論	大島隆代氏（浦和大学）
3	60分	多職種連携	原田奈穂子氏（東北大学大学院）
4	30分	東海市における災害福祉対策	松田久氏（東海市総務部防災危機管理課）
5	60分	災害医療について	高橋礼子氏（国立病院機構災害医療センター）
6	45分	災害福祉支援に関する法制度 東日本大震災の支援の現在	坪田まほ氏（日本医療社会福祉協会） 笹岡真弓氏（文京学院大学）
7	60分	発災後・避難所生活期の福祉支援活動	山本克彦氏（日本福祉大学）
8	30分	開催地の福祉支援経験者からの報告	山本克彦氏（日本福祉大学）

愛知会場＜2日目＞9：00-16：05

	時間	内容	講師等
9	120分	福祉系大学によるインクルーシブな避難 所運営～ソーシャルワークの視点から～	黒木邦弘氏（熊本学園大学）
10	150分	演習① 避難所生活期の福祉支援活動	遠藤洋二氏（関西福祉科学大学）、高橋了氏（石巻 市社会福祉協議会）、山本克彦氏（日本福祉大学）
11	90分	演習② チームカンファレンス	井上健朗氏（高知県立大学）、笹岡真弓氏（文京学 院大学）、佐藤杏氏（国立成育医療研究センター）、 坪田まほ氏（日本医療社会福祉協会）

平成 28 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
災害福祉支援活動研修実施事業 報告書

発行：平成 29 年 3 月

発行者：一般社団法人日本社会福祉士養成校協会

〒108-0075 東京都港区港南 4-7-8 都漁連水産会館

電話 03-5495-7242 FAX03-5495-7219

<http://www.jascsw.jp>

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会は、一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会、一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟との合併により、平成 29 年 4 月より

「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟」(ソ教連)

になります。住所地、電話番号は変わりません。本報告書に関するお問合せは、4 月以降はソ教連事務局へお知らせください。



QRコード



平成 28 年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業
災害福祉支援活動研修実施事業 報告書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会
(2017.4～「日本ソーシャルワーク教育学校連盟」になります)